

# 平成26年度 学校自己評価書

小美玉市立堅倉小学校 校長 櫻井 保男

## 1 今年度の取り組みの概要

- 児童の学習習慣の確立と基礎的・基本的事項の定着
- 自分の考えや解決方法を表現する能力を高めることに視点を当てた授業研究の充実
- 児童の思いや考えを生かした係・委員会活動など特別活動の充実
- 学校生活の基盤となる児童同士の好ましい人間関係づくり
- 保護者や地域との双方向による情報発信
- 学校支援ボランティア組織の有効活用

<達成度 A：十分に達成 B：おおむね達成 C：達成せず D：課題が残る>

### ◎ 達成目標 1 についての具体的な取り組み

組織目標 1	基礎・基本の確実な定着を図り，思考力・判断力・表現力等を高める学習指導を推進する。		
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
自分の考えや解決方法を表現する能力を高める授業を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問や学習形態などの工夫による言語活動の充実</li> <li>・専門性を生かした教科担任制の積極的導入（高学年）</li> <li>・TT による指導や ICT の活用等による個に応じた指導の充実</li> <li>・家庭学習の手引きの活用，「ノートの達人」コーナー設置</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で「分かった・できた」と感じる児童の割合 86%</li> <li>・算数科で，書く・話す・聞く・話し合う力がついてきたと回答する児童の割合 71%</li> <li>・家庭学習でどんなことをどのように学習したらよいか分かっている児童の割合 90%</li> </ul>	B
児童の思考力・判断力・表現力等の育成と人間関係づくりに関する指導法の工夫・改善に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校教科担任制モデル校，発達障害等に関する専門家派遣モデル校としての取組</li> <li>・ミドルリーダーを推進役とした研究体制の確立</li> <li>・学年ブロックを中心とした指導案検討会や授業反省会等校内研修の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人1回ずつの研究授業公開，特別支援教育集合指導訪問での全学級授業公開</li> <li>・学年ブロックを中心とした授業研究等に積極的に参画している教師の割合 82%</li> <li>・校内研修が充実していたと回答する教師の割合 80%</li> </ul>	A

### ◎ 達成目標 2 についての具体的な取り組み

組織目標 2	相手を理解し，互いのよさを伸ばす温かな人間関係づくりを推進する。		
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
児童が自ら活動を工夫し，楽しみながら協力し合って取り組む係・委員会活動を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級活動での話し合い活動</li> <li>・発達段階に応じた自主的・自発的な係・委員会活動の推進（堅倉っ子タイムの活用）</li> <li>・異学年交流の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が楽しいと回答する児童の割合 85%</li> <li>・係活動をみんなと協力して楽しく行うことができていると回答する児童の割合 86%</li> </ul>	B
互いに相手の身になって考え，支え合い励まし合える学級経営を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種体験等と関連付けた道徳の時間の指導</li> <li>・学校行事等と関連付けた S.G.E.や S.S.T 等の実施</li> <li>・夢をはぐくみ夢の実現への支援（学級活動における指導）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の体験と関連付けながら道徳の授業を行っている教師の割合 80%</li> <li>・他の人の気持ちになって考え，励まし合う学級になっていると回答する児童の割合 84%</li> </ul>	B

◎ 達成目標 3 についての具体的な取り組み

組織目標 3		保護者・地域との情報の共有化を図るとともに、双方向の連携を推進する。	
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
保護者等の立場に立った情報提供を行い、信頼関係の構築に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者等のニーズに応じた学校だより等の各種通信の発信</li> <li>携帯メール配信システムの活用</li> <li>子どもの変化を見逃さない保護者との情報連携</li> <li>学校評価の活用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校は教育活動等の様子について情報提供をしていると回答する保護者の割合 96%</li> <li>学校だよりを月2回発行する。</li> <li>親子会議を年間5回開催と結果等の情報提供</li> <li>年間計画への学校支援ボランティアの位置付け</li> </ul>	A

## 2 今年度の成果と次年度に向けた課題

- 昨年度の「学力向上推進プロジェクト事業に係る実践協力校」としての算数科における実践を発展させるとともに、本年度は「理科教育推進事業に係る小学校教科担任制モデル校」として、高学年において理科の他にも積極的に教科担任制を取り入れた。また、ミドルリーダー教員を推進役とし、学年ブロックを中心に校内研修を充実させ、全教師が年1回は授業公開を行った。授業研究等に積極的に参画している教師の割合が82%と教師の意識が向上し、それにともない授業力も向上してきた。その結果、授業で「分かった・できた」と感じる児童の割合が86%という成果が見られた。しかし、話し合う力がついてきたと回答する児童の割合は71%にとどまっているので、児童の考えを引き出す発問や板書構成の工夫が課題である。
- 「堅倉小学校版 家庭学習の手引き」の活用や、「ノートの人」コーナーの設置等により、家庭学習の習慣が身に付きつつあり、家庭学習でどんなことをどのように学習したらよいか分かっている児童の割合が90%という結果が見られた。積極的に取り組んでいる児童の学習内容を多く紹介してさらに意識を高めるとともに、多様な工夫が見られるようなノート指導の充実が課題である。
- 互いのよさを伸ばす温かな人間関係づくりを推進するために、構成的グループエンカウンターやライフスキルトレーニングを実施した。児童が学級を心の居場所と感じられるように、副読本「私たちの道徳」を有効活用し、道徳の時間を中心に思いやりの心を育てる学級経営を工夫した。友達の夢や希望を知っていると回答する児童の割合は40%という結果であったので、互いの夢について話し合ったり夢の実現のための道筋を考えたりする場の設定が課題である。
- 学校だより等の発行と併せてHPや緊急メール配信等を活用して情報発信を行い、保護者には学校からの情報提供について概ね満足をいただいている。情報発信ツールの有効活用を図りながら保護者からの多様な意見を受け止め、誠実に早期対応をしていく。
- 学校支援ボランティアについては、各教科、学校行事、環境整備等において有効に活用させていただいている。年間指導計画における学校支援ボランティア活用の位置付けを見直し、事前の連絡を十分に行いながら内容や方法について共通理解を図っていく。

## 3 保護者や地域の皆様へ

学校教育目標「確かな学力と豊かな心をはぐくみ たくましく生きる児童を育てる」の実現に向けて、「思考力・判断力・表現力等を高める授業づくり」「互いのよさを伸ばす温かな人間関係づくり」「保護者・地域との双方向の連携」の3つ柱を立て各種教育活動を推進してまいりました。

一つ目の「学力向上」については、教師の授業力向上が児童の学力向上に直結すると考えて校内研修を推進し、話し合い活動や学力診断テスト結果に成果が見えています。保護者の皆様にも家庭学習の時間確保と内容の充実についてご協力をいただきながら、さらに校内研修を深めて成果を上げていきたい考えです。二つ目の「人間関係づくり」については、学級活動や道徳の時間、体験活動等いろいろな機会を取り上げながら、豊かな心をはぐくむ基盤をつくっていきます。三つ目の「信頼関係の構築」につきましては、アンケートや皆様からの直接のご意見を生かした学校運営に努めておりますが、まだ十分ではありません。今後も、学校だよりやHP等の内容を充実して様々な情報を発信してまいりますので、学校に足を運んで授業や校内環境をご覧いただき、児童の様子や学校の取組について、本校職員と言葉を交わしていただくと幸いです。